

【小施策評価(平成29年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	交通政策課
施策	27	交通環境の構築	評価 責任者	富樫 正幸 内線 2760
小施策	27-1	総合交通計画の推進	評価 シート 作成者	藤原 司 内線 2761

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
公共交通や自転車は、交通渋滞の緩和や環境負荷の低減などにつながるとともに、高齢者をはじめとする交通弱者にとってなくてはならない身近な交通手段であることから、その役割を踏まえた交通環境の構築が課題となっている。		円滑な交通環境を構築するために、鉄道やバスなどの各交通手段と道路などの交通基盤を総合的に捉えた「ひと・まち・環境」にやさしい総合的な交通体系の構築を進める。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(対象をどのようにしたいのか)
各交通手段, 利用者, 幹線道路等		総合的な交通体系が確立され, 利用者が快適に移動できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成29年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標①	単 位	目指す方向	成 果 点	⇒	成 果 の 要 因 分 析
まちづくり評価アンケート調査「快適に移動できる」と答えた市民の割合	%	↗			
当初値 (H25)	43.9	H31目標値	46.7	H36目標値	49.5
			<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路整備プログラム事務では、社会情勢等を踏まえた、実効性のあるプログラムに、見直しを行い公表した。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路整備プログラム事務では、総合交通施策懇話会での意見を聴きながら、基本方針の評価及び関連計画との整合性を踏まえた見直しを行うとともに、整備優先順位と事業費配分に係る事項を盛り込んだ。
			<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備の遅れの影響から指標の実績値が目標値に向かっていない。 ・都市計画道路変更事務では、県策定の盛岡広域都市圏道路網基本計画の道路網から外された都市計画道路南仙北滝沢線等の一部では、あらかじめ水田等の土地改良事業で確保された道路予定地(創設換地)があるため、今後、その道路予定地についての取り扱い方針を定める必要がある。 ・公共交通利用が不便な地域において、地域型交通システム整備事業により、交通手段の確保を行ってきたが、高齢化や過疎化により今後益々地域が増加する。 ・高齢化、過疎化等の社会情勢の変化に合わせ、各種計画の見直しや策定を行う必要がある。 	⇒	<ul style="list-style-type: none"> ・国費の低交付率による財源確保。 ・都市計画道路変更事務では、都市計画道路南仙北滝沢線等が一部廃止となった場合の、確保済みの道路予定地の取扱い方針が未定であること。 ・運転免許の返納や、高齢化による運転不安者の増加に対し、郊外部においては、公共交通が不採算であることから、対応が困難。 ・ダイナミックに社会構造が変わっていく中で、計画の策定当初に、社会情勢を正確に推測することは難しい。
			問 題 点	⇒	問 題 の 要 因 分 析

今後の方向性(平成30年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ★…30年度着手済または着手予定 ☆…31年度以降の着手を検討
<ul style="list-style-type: none"> ★ 国に対し、交付金の財源確保について要望する。 ★ 都市計画道路変更事務では、都市計画道路用地として確保された道路予定土地の今後の取扱いについて検討を行ない、地元の意見を把握しながら、適切な時期を見据えて、変更手続きの検討を進める。 ★ 地域公共交通網形成計画の施策検討の中で、地域型交通システム整備事業を検証し位置づけを検討する。 ☆1 都市計画道路整備プログラム事務では、プログラムの進捗管理を行うとともに、今後も継続する厳しい財源確保の状況の中、効果的・効率的な整備が図れる次期プログラムの策定検討を進める。 ☆2 社会情勢の変化に対応した都市計画道路ネットワークを検討し、関連計画との整合性を踏まえたもりおか交通戦略次期計画の策定検討を進める。 	